

朝鮮の産業

朝鮮の産業



朝鮮の産業目次

一、總

說

一

二、農

業

二

(イ)

米

.....

三

(ロ)

小

麥

五

(ハ)

大

豆

七

(ニ)

小

豆

八

(ホ)

棉

花

八

(ヘ)

大

麻・苧

.....

十

(チ)

甜

菜

十一

(ト)

養

蠶

十二

(リ)

家畜・牛皮・家禽

.....

十三

六、	(リ)、(チ)、(ト)、(ヘ)、(ホ)、(ニ)、(ハ)、(ロ)、(イ)	五、	四、	三、	(又)								
鑛	其他の工業	製燐	製草	鐵工	釀造	製紙	窯業	機業	工業	水産	林業	果樹	
業	業	業	品業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	
.....	
卅二	卅一	卅一	卅	卅九	卅八	卅七	卅六	卅五	卅四	卅二	十八	十五	十五

朝鮮の産業

一、總 說

往時韓國時代は庶政弛緩し産業又萎微不振を呈し其生産額の如き明治四十三年に於ては三億六百萬圓輸移出入額は六千萬圓に過ぎざりしも朝鮮總督府設置以來銳意産業振興の方法を講じたる結果大正十一年に於ける生産額十五億九千萬圓に達し輸移出入額四億七千萬圓を算し之を併合當時に比するときは生産額に於て約五倍輸移出入額に於て約八倍を示すに至れり今大正十三年に於ける生産額を示せば左の如し。

大正十三年生産額

生産物	價額
農産物	一、三三九、八五八千圓
林産物	七四、二三四千圓
水産物	八三、八六二千圓
鑛産物	一九、一七六千圓
工業物	二七六、八六二千圓
合計	一、七九四、一七九千圓

二、農 業

農業は古來朝鮮の國本にして現時に於ても朝鮮産業の樞軸たり耕地總面積は水田（内地の田に相當す）百五十萬町歩、田（内地の畑に相當す）二百八十四萬町歩、火田十四萬町歩合

計四百五十三萬町歩を有し之を陸地全面積に對する開拓の割合よりするも農家一戸當の面積より見るも内地に比し狭少なりとせず而して干潟地・草生地等の未墾地にして開拓可能のもの尙少からず本府は國有未墾地の開墾或は水利灌漑の施設等に對しては種種の方法に依り之か奨勵に努め居れり。農業者は朝鮮全人口一千七百萬人の約八割之に従事し農産品の生産額は産業生産總額の八割に相當し農産物及同加工品の輸移出額は總輸移出額の約七割を占む以下主要農産品に付其の概況を述べれば左の如し。

(イ) 米

朝鮮の氣象は農業殊に稻作上概して有利にして其の年溫度は内地の同緯度地方に比し稍低しと雖夏季の氣溫割合に高きを以て稻の生育上頗る好影響を作し又降雨量は一般に寡少ないと雖六・七・八月の交所謂降雨期に於て雨量の多き事は灌漑設備の乏しき朝鮮の稻作を

して有利ならしめ一面快晴日數多きを以て日照時間内地に比し遙かに多く稻の生育成熟を迅速ならしむるの便あり加之内地に於けるか如き強烈なる暴風雨の襲來極めて少く彼の稻作の最大危険たる二百十日の厄日を見さるか如き有利の條件尠からざるを以て朝鮮總督府設置以來先づ鮮内の需要を充實し其の餘剰を移して内地及滿洲地方に輸移出せむとする方針の下に土地の開拓、水利設備を改善して耕地の擴張を圖り内地に於ける優良品種を移して之を普及し在來品種の改良を講し施肥及耕作、乾燥調製の方法を改め又米穀検査を行ひ以て品質の改善と聲價の發揚に努めたるを以て往時に於けるか如き劣惡米と土砂、夾雜物の混入を全然革め今や作付反別百五十八萬町歩收穫高千五百萬石の優良米を生産するに至り鮮内の消費を滿たして猶年年四百萬石内外の輸移出を見内地に於ける不足米を補ひつつある狀況なり。

今朝鮮に於ける稻作面積、米の收穫及輸移出額の狀況に付始政當時と最近の實況を表示す

れば左の如し

年別	區別	稲作面積	收穫	稜高	檢移出高
明治四十三年		一、三五二、七九七 <small>町</small>	一〇、四〇五、六一三 <small>石</small>		七九八、九七六 <small>石</small>
大正五年		一、五一八、八四四	一三、九三三、〇〇九		一、七〇六、九〇〇
大正十二年		一、五五〇、三九九	一五、一七四、六四五		四、〇八四、五六七
大正十四年		一、五八五、二一六	一四、七七三、一〇二		四、七五三、六五三

(口) 小 麥

小麥は朝鮮各道生育に適するも他作物との關係上北鮮地方に多く栽培せらる。殊に西北鮮地方産のものは粘性に富み品質極めて良好にして製粉原料として致て濠洲、米國品等に對し遜色なき特質を有するを以て朝鮮に於ける小麥作は前途實に有望なりと言ふべし。

小麥は製粉原料として輸移出せられ始政前に於ける輸移出額は米及大豆に次きて多量なり然れとも一面小麥粉の輸移入額は小麥粒に換算し輸移出額と始んど同額に達し而も其の額は漸次輸移出額を超過するの傾向を示せり。今小麥の生産及輸移出額を表示すれば左の如し。

小麥の生産及輸移出狀況

年 別	區 別	生 産 額	輸 移 出 額
明治四十三年		一、二〇五、九七二 <small>石</small>	四五、七一九 <small>石</small>
大 正 五 年		一、七七〇、九〇七	六八、七六六
大 正 十 二 年		一、六七九、八七二	二四、三カ五
大 正 十 四 年		二、一七九、一九六	九カ、八九三

(ハ) 大豆

朝鮮に於ける大豆の耕作は内地・滿洲に比し風土優秀なるを以て比較的粗笨なる農法に依るも尙品質優良にして相當の收穫を收む。加ふるに始政以來品種の統一、栽培・調製法の改善に力を注きたる結果一層收量の増加と品位の昂上を見るに至れり。

特に咸鏡南道の端川、安邊及京畿道の長端の如きは遙かに内地産を凌駕する優良品種を生産す。品質は内地及滿洲産に比し脂肪含量に於て伯中の間にあるも蛋白質は遙かに多きを以て食用大豆等に供せられ近年百萬石内外を内地に移出しつつあり。

大豆生産及輸移出狀況

年 別	區 別	收	穫	高	輸	移	出	高
明治四十三年			二、七四六、三五八 <small>石</small>				七八八九〇 <small>石</small>	

大正五年	四、二二五、七一七	九四三、〇一六
大正十二年	四、六四一、四六七	一、二八二、九九〇
大正十四年	四、五一二、一三三	一、〇〇四、七六八

(二) 小豆

朝鮮の氣候は大豆に於ける如く小豆の栽培にも亦適し品質收量共に優秀にして北鮮地方殊に咸鏡南北道の東海岸に於ては大粒にして外皮薄き良質のものを産し内地市場に歡迎せらる。然れとも小豆は之を米、粟に混し常食と爲すの慣習あるを以て鮮内消費甚た多く年々多少の輸入超過を示しつつあり。

(ホ) 棉花

朝鮮の風土は棉花の栽培に適し古來各道に亘り廣く朝鮮在來棉の栽培を見たるも收量、繰綿歩合共に多からず僅かに自家用として地木棉の原料、中入綿等に供せられたるに過ぎざりき。明治三十七年以來米國種陸地棉の栽培を試験したる結果其の栽培を適當と認むべき朝鮮地方に對し陸地棉の栽培を奨め西北鮮地方に對しては在來棉種の改良を圖りたるか今や朝鮮に於ける棉花の栽培は著しく發達するに至り最近の收穫高實棉約一億四千萬斤を示し鮮内に於ける紡績業者の需要に應ずると共に繰綿の上内地に移出せらるるもの一千六百四十餘萬斤に達す。

棉花の生産及繰綿輸出狀況

年 明	區 別	生 産		高	繰綿輸出高
		陸地棉	在來棉		
明治四十三年		六六八、一五二 <small>斤</small>	二〇、四〇〇、六八五 <small>斤</small>	三、〇七、八三六 <small>ガ</small>	一一、〇四七 <small>擔</small>

大正八年	八六、〇四、〇三三	一一、三四、二七五	九三、三六、九七	九三、六二四
大正十二年	六六、八六、三三六	三〇、七七一、三七一	一三七、五九、〇〇	一一七、四一〇
大正十四年	一〇一、九八、八五三	五、九九九、九八八	一四、八六八、八四一	一六四、六八一

(～) 大麻・苧麻

大麻は朝鮮到る處生育に適し、苧麻は南鮮の一部に栽培せらる。

大麻は麻布を主とし草鞋、魚網等の原料として使用せられ、苧麻は織物にのみ使用せらる而して麻布及苧布の生産高は最近一千百萬圓に達すと雖尙需要を充たすに足らず年年支那産麻布を五百萬圓乃至八百萬圓輸入する狀況なるを以て大麻及苧麻の栽培は前途最も有望なり。

麻類生産額

年 別	大	麻	苧	麻
明 治 四 十 三 年		一、七四九、七四〇		四七、五二九
大 正 十 二 年		五、五五九、二九二		一三八、一二一
大 正 十 三 年		五、五五七、六四九		一五二、一六〇

(ト) 甜 菜

甜菜は明治四十四年朝鮮總督府に於て試作の結果西鮮地方に於て有望なる成績を得たるを以て大正六年朝鮮製糖會社（大正八年に至り大日本製糖會社に併合）の創立を見るに至りたるも尙助成の必要を認め大正七年以來平南、黃海兩道に國費を補助し、農民に優良種子の配付を行ひつつあるが成績良好にして今や耕作面積二千五百町歩、反當平均收量二噸にして含糖歩合一四乃至一五パーセントに達す。

(子) 養 蠶

蠶業は農家好適の副業にして古來朝鮮全土に亘り相當の素地を有するのみならず風土亦能く之に適す。然れども李朝中世以降庶政の弛緩と共に蠶種・桑園共に劣退荒廢し優良繭の産出を見ざるに至り其收購量も亦著しく低減せるを以て始政以來優良蠶種桑苗の普及、育蠶法の改良、殺蛹・乾繭の設備等蠶業獎勵に努めたるに著しく斯業の發達を見るに至り始政當時に於て産繭額約一萬四千石なりしも最近に於ては其産額二十八萬五千石に達し品質は始んど内地の優良品に劣らざるものを出し從來の面目を一新し將來益發達せむとする狀勢を示せり。

收購は自家用として鮮内に需要せらるる外乾繭の上内地に移出せらるるもの年額十三萬石以上を算す。

製絲業は養蠶の發達に伴ひ經營の氣運大に漲り京城・全州・大邱等各地に製絲場を設置せられ機械製絲を行ふに至り今や其釜數二千餘釜、移出額六萬五千貫にして其の價額六百九十萬圓を算す。

(リ) 家畜・牛皮・家禽

牛 朝鮮は古來畜牛の風盛にして到る所農家に之か飼養を見さるなく體格偉大體質強健にして粗放なる飼養に堪へ性輕快にして温順持久力強く使役容易に肉味又美なるを以て役牛及食牛の何れにも好適す。朝鮮總督府は優良牛輸出の有望なるに鑑み牛種の改良と増殖を期し種牛の保護及種付の獎勵其他畜牛に關する施設を周到にせる結果始政當時に於ける畜牛數七十萬頭は最近に於て百六十一萬頭に達し而も内地市場の歡迎する所となり毎年六萬頭内外の移出を見るの狀況にあり。

豚 朝鮮豚は體軀倭少・晩熟にして體量僅かに十貫内外に過ぎざるも強健にして繁殖力強し最近飼養頭數百十七萬頭にして全道に分布するも概して京畿道以北に濃厚なり。朝鮮總督府は早熟性にして體軀を肥大にする方針に依り在來種に「パークシヤ」種を配したる雜種並「パークシヤ」種を奨勵種と爲し之か普及に努めつつあり。

牛皮 牛皮は從來剥皮及乾燥方法宜しきを得さりし爲皮面を傷けたるもの多かりしも之か改良に努めたる結果著しく品質を昂上するに至れり。最近年産額約六百五十萬斤輸出額五百六萬斤を算す。

鶏 朝鮮在來の鶏は體量軽く産卵力少く一箇年僅かに七十顆内外に過ぎず飼養經濟的ならざるを認め産卵能力豊富にして體量の肥大なる種類に改良すべく方針を定め種禽・種卵を配付し之か繁殖に努めたる結果卵量及卵數の卓越せるを一般に認識し漸時普及しつつあり。最近の飼養羽數六百九萬三千羽に及びり。

(又) 果 樹

朝鮮の風土は果樹の栽培に好適せるを以て柑橘類を除くの外栽培を見ざるものなく朝鮮總督府設置以來優良果樹の栽植を奨勵したる結果、蘋果、梨、葡萄、栗等は内地品を優越する良品を産出し内地、露支方面に輸移出するもの年と共に増加の趨勢にあり。産地は蘋果にありては京畿道、慶尙北道、忠清南道、黃海道、平安南道、咸鏡南道、梨は慶尙南道、黃海道、全羅南道、栗は平安南道を共に主産地と爲す。最近の年産額蘋果三百九十萬貫、梨二百七十三萬貫、葡萄十七萬貫、栗三百五十萬貫を算す。

三、林 業

朝鮮林野の現況を見るに其の總面積約一千五百八十八萬町歩にして全面積の約七割一分を

占むるに拘らず成林地（疎生又は散生地を含む）は僅に三分の一即ち約五百四十八萬町歩に過ぎず其の内約三百六十八萬町歩は國有林に屬し鴨綠江、豆滿江の兩流域又は脊梁山脈に偏在し交通、運搬、不便にして大半未利用林の狀態を呈し其の他の約一千四十萬町歩の内には約三分の二即ち七百二十八萬町歩の椎樹發生地ありと雖地力減耗して充分の生育を期待し難く殘地三百十二萬町歩は全く生産に與らざる未立木地又は荒廢地に屬す之を所有別に表示すれば左の如し。

林 相 概 況 （單位千町）

林 地	國 有 林	民 有 林	計
成 林 地	三、六八〇	一、八〇二	五、四八二
稀 樹 地	一、〇九〇	六、一九五	七、二八五
無 立 木 地	六六〇	二、四五六	三、一一六

次に朝鮮の氣候は大陸性を帯び寒暑共に酷烈にして春秋の期間短く冬期最寒氣溫晝夜の交差大なり。而して朝鮮の地勢は東西に狭く南北に長く東西最廣の處と雖九十里を越えさるも南北最長の處は二百十里に達するを以て南北に於ける氣候は甚しき差等あり。北寒帶より南溫帶に到る迄各種の樹木を生し其の分布亦地方に依り同しからず。北部鴨綠江及豆滿江の兩流域上流其他の高山に於ては「カウヒ」「テウセンカラマツ」「テウセンハリモミ」「クウシラベ」「テウセンマツ」「シラカンバ」等を主とし鬱蒼たる樹林を形成し中部より南部に亘り到る處「アカマツ」多く又「クロマツ」「ナラ」「クヌギ」「ケヤキ」「ハンノキ」「クリ」等を生し最南部に到れば「カシ」「シヒ」等の常綠樹及竹林の存在するを以て朝鮮は寒暖各帶樹種生し其の數七百種の多きに達す。

四、水産業

朝鮮は三面海を以て圍繞せられ海岸線の延長實に九千三百二十五哩に達し地勢 氣候及潮流の關係等天恵に厚く水族の棲息僦多にして有利の漁場に富めり然るに日韓併合以前に在りては漁政の基礎薄弱にして營業の安固を缺くのみならず漁業に關する諸般の施設にして見るべきものなく漁民亦概ね無智にして徒に舊慣を墨守するに過ぎざる狀況に在りて斯業の進歩發達を期すること能はざりしを以て併合以來専ら漁獲の増進に力を注ぐと共に水産製品の改良及産額の増加を圖り一面漁民の知識技能を啓發し其の經濟狀態と社會的地位とを向上せしめ漁村の健全なる發達を促進せむことを期し漁業令以下水産に關する法令を發布して諸般の制度を確立し漁業の保護取締を嚴にして營業の安固を得せしめ水産製品検査を施行して製品品位の向上に努め漁業組合の普及改善を圖りて漁村の維持經營に資し朝鮮

水産會の施設を助長して水産業の改良發達を促進し又斯業の獎勵 漁民の教養に關しては實地に之を指導する等中央地方相呼應して或は國費を投し或は地方費を支出して朝鮮水産業發達の爲に力を臻せし所妙からず。

以上各種の施設は時勢の進運と相俟て漸次其の生産額を増加し明治四十四年に於て漁獲高六百七十六萬圓、製造高二百六十五萬圓なりしもの大正十三年に於ては漁獲高五千百九十九萬圓、製造高三千百七十七萬圓に達し漁獲高に於て七倍七分、製造高に於て十二倍の激增を示すに至れり今最近に於ける重なる品種の生産額を示せば左の如し。

品名		價額
鮭	鮭	六、九一〇千圓
石首魚	鮭	六、二三四千圓
	石首魚	三、四八九千圓

魚 鮮

明 太 魚	鯨	鱈	鯛	太 刀 魚	鱈	鱈	鯨	和 布	鱈	鱈
三、三六七千圓	二、一八一千圓	二、〇五四千圓	二、〇二〇千圓	一、六四六千圓	一、五七二千圓	一、五六一千圓	一、三九六千圓	一、三八三千圓	一、二九四千圓	一、二一〇千圓
										一、〇七〇千圓

海

嘉

一、〇四七千圓

品名	價額
素乾明太魚	三、二一六千圓
鹽乾石首魚	九八八千圓
同鱈	一、二六八千圓
煮乾鯉	五、八六五千圓
同海參	八二五千圓
鹽凍鮭	一、八三五千圓
同石首魚	五五四千圓
同太刀魚	六一四千圓
同鱈	九二六千圓

海藻	海	繻	九六八千圓
同	和	布	一、〇四一千圓
同	海	苧	一、六八四千圓
其他	蒲	鉸	五一四千圓

五、工 業

朝鮮の工業は往時一度相當の發達を遂げたることありと雖爾來國勢と共に漸次衰退し、併合當時に在りては纔に機業、鑿業、製紙業、醸造業、金屬品等の小工業に其餘影を止むるに過ぎず。而も技術幼稚、器具不完全、製品亦粗惡にして日常生活の必需品も大部分之を輸入品に俟つの狀況なりしを以て本府に於ては夙に斯業の指導獎勵に努むる所あり、即ち各種工業に關する傳習事業又は企業に對し或は金品を補助し或は指導を行ひ其他原料の

蒐集、製品販路の斡旋等種々の便宜を與へて事業の成功を援助し、一面に於て中央試験所を設けて産業に關する各種の調査研究を行ひ其結果を公表して一般の參考に供し、或は工業教育機關の整備を圖りて知識技能の養成に資し、或は地方廳を督勵し各種工業に關する施設經營を爲さしむる等銳意工業の發展に努め來りしか之等各般の施設は時勢の進展と相俟つて技術の進歩、製品の改良、産額の増加を促し且鮮人の工業に對する思想漸次啓發せられ工場組織を以て事業を經營せむとする者漸く増加せむとするの傾向あると共に内地實業家にして朝鮮に於ける工業經營に著目し大正五年以來紡績、製糖、硬質陶磁、「バルブ」、「セメント」製鐵業等に付大規模工業の經營を爲す者あるに至り明治四十四年の工産額（副業工産品を含む）三千萬圓なりしもの最近に於ては二億七千萬圓に達し又工場數の如き明治四十四年に於ては二百五十個所其の資本金一千六十萬圓なりしもの最近に於ては三千八百個所其の資本金一億六千六百九十萬圓に増加し長足の進歩を示すに至れり。

(イ) 機業

朝鮮の氣候風土は前述の如く機業原料たる棉花・麻類の生育或養蠶に適せるを以て機業は古くより行はれ綿麻、絹各種の織物は鮮内到處に生産せられたりと雖製品々質の粗笨なるを免れざりき。始政以來本府及各道に於て之が改良發達に關し各種の施設を講じ其の結果時勢の進展と相俟て製品々質の改善と種類の増加を促したるのみならず、産額亦漸次増加の傾向を呈し、明治四十四年には其生産額五百五十餘萬反、價格五百餘萬圓なりしもの、最近に於ては八百六十餘萬反、二千三百餘萬圓に達せりと雖、尙需要の大部分は之を輸入に仰ぎ其價格實に六千萬圓内外の多きを示せり。

綿布は改良織機及動力織機に依りて製造するもの漸次増加し朝鮮紡織株式會社及京城紡織株式會社の設置を見たりと雖最近に於ける生産は仍僅に一千萬圓に過ぎずして未だ鮮内の

全需要を充たすに足らず四千五百萬圓は之を輸入に俟つの状態に在り。

麻布及苧布は總て在來織機に依り始んど農家の副業として手紡絲を以て製出せられ最近年産額九百萬圓を算するも之亦全道の需要を充すに足らず五百萬圓内外は之を支那方面より輸入しつゝあり。

絹布も亦在來の製法に依るもの多きも最近改良織機に依り工場組織の經營漸次増加せり。其製品は絹、羽二重、官紗の類にして最近年産額三百二十萬圓に達するも尙八百萬圓内外は之を輸入に俟つの状態に在り。

(口) 窯業

朝鮮は到る處優良なる窯業原料土石を多量に賦存するを以て原料の點より見るときは最も有望なる窯業地と稱し得べく古來高麗燒の如き名聲噴々たるものありしも一時廢類し併合

當時は各地に小陶器場點在し附近の需要に應すべき粗笨なる製品に過ぎざるの狀態に在りき。本府は始政以來原料の調査を爲し獎勵及試験の施設を充實ならしめ時勢の進歩と相俟て品質の昂上と産額の増加著しきものあるに至り明治四十四年の産額百十四萬圓なりしもの最近に於ては約一千萬圓を算するに至れり。特に平壤に小野田セメント株式會社の支工場を又、釜山には日本硬質陶器株式會社工場を設くるありて朝鮮の窯業も面目を一新するに至れり。

(ハ) 製紙業

朝鮮の製紙業は起源古く北鮮の一部を除くの外全道に普遍し製品の優秀なるものは貢物紙として支那政府に貢獻せるに依り其の需要を喚起し早くより支那に輸出せられたる等、朝鮮に於ける在來工業中機業に亞き重要な地位を占むるものなり。

朝鮮紙は其質強韌にして窓紙、包紙等特殊の用途を有し其の生産額明治四十四年三十八萬餘圓なりしもの最近に於ては約二百餘萬圓を算するに至れり。

パルプ製造業には木材及菅草を原料とする兩種あり前者は平安北道新義州に後者は慶尙南道龜浦に製造場を有し共に内地に移出して聲價を博しつつあり特に菅草パルプは質優良にして高級紙料として製紙業者に歡迎せらる。

(二) 釀造業

朝鮮に於て在來製造せらるる酒は藥酒、濁酒、白酒、燒酎、過夏酒、梨薑酒、甘紅露及松筍酒等種類多く最近の産額四千餘萬圓を算す。

清酒は内地人の需要の外近時鮮人間にも重用せらるるに至り其製造額に發達し明治四十四年に於て二萬四千餘石、價額七十四萬圓なりしもの、最近に於ては倍加して五萬八千石五

百三十餘萬圓に増加し、年々幾分内地酒の輸入量を減少すると共に支那、西伯利方面に輸出せらるるもの漸次増加し最近に於て二百石價行二十萬餘圓を算す。

醬油の醸造高亦年々増加し、明治四十三年に造石高二萬石、其價格七十萬圓なりしもの最近に於ては約八萬石、二百六十餘萬圓に達せり。之に反し輸入は明治四十三年に八千餘石なりしもの、最近に至りて三千餘石に減りし。輸出は明治四十三年に九百石、一萬五千圓なりしもの、最近には二三四百餘石、二三萬三千餘圓に増加し、今や醬油の醸造は鮮内の需要を充して輸出を爲すの餘力を有する迄に發達せり。

(ホ) 鐵工業

朝鮮に於ける在來鐵工業は極めて幼稚なるものにして僅に鍋釜類、刀物、農具等を副業的に製せらるるのみなりしが、近時京城其の他都會地方に於て新式の鐵工業を営むもの増加

設備製品共に在來のものに比し優れものを製出するに至りたるを以て近年需要大に増加するに至れり。然れども尙其製品は吹鑄器、農具其他簡單なる機械の製作に止まり、彼の鐵道、鐵道用其他近年勃興しつつある各種工場工業、水利事業等に要する優等機械類の製作修繕に至りては未だ其の製出を見ず、凡て其供給を内地又は外國に仰ぐ其價格毎年數千萬圓に達するの状況なり、鮮内に生産せらるる各種鐵工製品の産額は最近四百萬圓なり

（八） 莞草製品

朝鮮に於ては未だ生産せらるる産物中其の品質と用途とに於て重視すべきものは莞草産なりとする。其の原料莞草は朝鮮特有の生産物にして表皮を剥ぎ之を乾燥して日光漂白を爲したるものを絲となし、麻絲を經とし織成せるもの製莞草産にして其外觀高雅、素質頗る強韌なり。近年に至り本草を利用して新規なる蓆席並に靴、スリッパ及内地人向疊表等の製造

を開始し之を内地及外國に輸出しつつあるか將來益々有望なる貿易品たるべし。産額は明治四十四年に於て三十四萬五千餘圓なりしもの最近には實に百七十餘萬圓に達するに至れり。

(ト) 製革業

朝鮮産牛皮は内地製革業に取りて缺くべからざる主要原料にして、内地への移出は逐年増加せりと雖、鮮内に於ける製革業は従來更に振はず唯二三小規模工場と若干の舊式工場ありたるのみなりしが、近年に至りては内地製革業の發展に連れ相當規模に依る工場の興起を見るに至れり。抑も朝鮮に於ける製革業は原料の豊富、販路の有望、勞銀の低廉等事業發達の要件具はり將來有望なるものと認めらる、最近に於ける皮革及皮革製品の製産額は約二百餘萬圓なり。

(チ) 製燧業

朝鮮の製燧業は今猶創始の時代に在りと云ふべく、其生産額の如きも僅に朝鮮需要額の約四分の一を充すに過ぎず最近に於ける生産價額は約三十餘萬圓にして同年の輸入價額は百六十萬餘圓を算する狀況なるも原料資材に乏しからざるを以て製燧業の將來は相當發達の餘地あるものと認む。

(リ) 其他の工業

以上に掲ぐるものの外製粉業、甜菜製糖業亦朝鮮に於ける注目すべき事業に屬し、前者に在りては大正七年以來機械製粉業の興るに至り、後者は平壤に於て大日本製糖株式會社の創始に添り茲に初めて朝鮮に於て砂糖の生産を見るに至れり。

其他荏、篋麻、大豆の製油業、編組物、漁網、石鹼、漆器、木工細工品、杞柳、木通細工品等の製造業は其生産未だ大ならずと雖、或は將來需要増加を來すもの、或は原料の産出餘からざるもの、或は家内工業としての素地あるもの等將來有望にして又其の發達を企圖すべき事業に屬せり。

六、鑛業

朝鮮に於ける鑛業は金、砂金、鐵、黑鉛、石炭の各種鑛物を其主なるものとし外に銀、鉛、亞鉛、水銀、硃砂、高嶺土等の賦存少からざるも李朝末庶政の弛緩に依り何れも操業幼稚にして見るべきものなかりしを以て始政以來漸政の刷新と地質、鑛床の調査を重ね各種鑛物の賦存状態を明かにし豊富なる資本と進歩せる技術の移入に努めたる結果各種鑛山の開發せらるるもの少からざるに至り最近に於ける設定鑛區約二千一百餘鑛區を算す。

鑛産額は年に依り増減ありと雖大體に於て漸次増加し來り明治四十三年に於ては六百六萬圓に過ぎさりしも財界好況の影響を受け大正七年三千八十三萬餘圓に達したり然るに其後財界の沈淪に伴ひ漸減の步調に轉し大正十年に於ては一千四百五十萬餘圓に低減したりしか同年末頃より金鑛業復活の曙光を見續いて諸般鑛業亦漸く活氣を帶ぶるに至り大正十三年には千九百十七萬餘圓を産出せり而して鑛種別鑛産額は明治四十三年以降大正六年迄は毎年金、地金、全鑛産額の第一位に在りしか大正六年以降其産額減少したると一方鉄鐵の産額増加したるとに依り大正七年以降は鉄鐵、金、地金に代りて第一位を占むるに至り石炭、金、地金、鐵鑛、粗鋼、汰鑛、金銀鑛、砂金、黒鉛等之に亞けるか金鑛、鐵鑛、黒鉛、石炭の各鑛は鑛區廣く且賦存量豊富にして朝鮮に於ける重要な鑛業とす。

金は概ね石英脈中に存し時に接觸鑛床中に産す最近の年産額約五百萬圓を算し之が主要産地は平安南北道、黃海道、江原道、咸鏡南道、忠清南北道等にして近時採掘益々隆盛なら

んとす。

黒鉛は鱗狀、土狀の兩種存在し鱗狀黒鉛は平安北道、咸鏡北道を主産地とす、土狀黒鉛は慶尙北道、忠清北道、咸鏡南道、江原道、平安南道、全羅南道等を主産地とす。年産額に財界は戦時時代たる大正六年に於て著しく採掘額を増し百餘萬圓に達したるも最近二十餘萬圓に減退せり。

鐵鏽は磁鐵鏽、赤鐵鏽、褐鐵鏽、菱鐵鏽の四種にして現時製鐵用に使用せられてつあるは磁鐵鏽、赤鐵鏽及褐鐵鏽にして悉く酸化鐵若は水酸化鐵なり。而して鐵鏽床分布の狀況に於ては大體に於て鏽床多く江原道には接銅磁鐵鏽床あり、平安南道、黃海道地方には交代及層狀褐鐵鏽並赤鐵鏽、咸鏡南北兩道には交代磁鐵鏽床多し、主要産地は西鮮に於て黃海道義寧、殷栗、黃州、安岳及平安南道价川、咸鏡南道利原郡とす。

鐵の製錬は從來概ね鮮外に於てせられたるを以て見るべきものなかりしも三菱製鐵所の設

置を見るに至りてより大正八年の好況時に於ては一千十六萬餘圓を生産したり最近の産額約五百萬圓内外とす。

石炭は發熱量大にして家庭用煉炭及海軍用燃料として著名なる無煙炭と其質九州炭、撫順炭より稍劣るも一般工場用及鐵道用又は暖房用燃料として何等使用に支障なく然かも煙少き樹炭とを産す、而して之等石炭の内有煙炭は主として北鮮に、無煙炭は西鮮地方に賦存す、石炭の埋藏量に付ては未だ全部の調査を了せざるも少くも十億噸を下らざるべし。

石炭の採掘は歐州戰亂勃發後著しく炭田開發を促し明治四十三年に七萬餘噸、三十八萬餘圓の産額なりしも大正八年には二十一萬餘噸、二百十二萬餘圓となり大正十三年には約四十餘萬噸、二百九十六萬餘圓に達せり、而して有煙炭は鮮内の需要に供し無煙炭は一部海軍燃料に供せらるるの外近時内地に於て煉炭原料又は蠶室保温燃料として實用せらるるに

至り著しく需要を喚起し大正十四年には約二十萬噸を移出せり。

大正十五年三月二十日印刷

大正十五年三月二十五日發行

朝鮮總督府